

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	もやもや病における臨床経過ならびに治療成績に関する後方視的検討
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
対象者：1980年1月から2029年3月にかけて当科に於いて無症候性も含めてもやもや病と診断された患者（疑いも含む）	
③概要	
もやもや病において虚血性イベント、出血性イベントは生命予後および機能予後を悪化させる大きな因子である。予防的治療として直接バイパスや間接バイパスなどの脳血行再建術が行われるが、その治療効果は明らかではない。無症候である場合は、その自然経過や手術適応が問題となる。また初期の段階では、頭蓋内動脈の一部の狭窄のみで見つかることもあり、その後も進行を予測することが重要となる。	
④申請番号	2019-0187
⑤研究の目的・意義	もやもや病における自然歴を含めた臨床経過や脳血行再建術後の治療成績に関して、臨床的・画像的所見などの特徴から後方視的に検討する。
⑥研究期間	倫理委員会にて承認された日にちから2029年3月末まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	電子カルテに保存されている病歴及び画像を利用します。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	年齢、性別、既往歴、発作型（虚血型（脳梗塞、一過性脳虚血発作）、出血型、頭痛、しびれ、てんかん等）、進行の有無や出血転化などの臨床経過、手術方法（直接バイパスや間接バイパスなど）、CT（CTA/Vを含む）やMRI/A（TOF-MRAやsilent MRA、PETRAなどを含む）、脳血管撮影による画像的特徴（鈴木分類による病期、transdural anastomosisやleptomeningial anastomosisなどの側副血行路、periventricular anastomosisの発達状態、動脈瘤の併発、術後のバイパス血流の発達状態など）、周術期合併症や術後の臨床経過など。
⑨利用の範囲	新潟大学 脳研究所 脳神経外科
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学 脳研究所 脳神経外科 助教 鈴木 倫明

④お問い合わせ先	脳神経外科医局 025-227-0653 <a href="mailto:shindainougeka@bri.niigata-u.ac.jp">shindainougeka@bri.niigata-u.ac.jp</a>
----------	---